Natural Disasters — Education, Preparedness and Mitigation, Cooperation (What Can High School Students Do?)

---災害に備え、立ち向かう効果的な国際協力のあり方を求めて ---

国名: 日本

学校名: 神戸市立葺合高等学校 国際科 第2学年

学校 URL: http://www.kobe-c.ed.jp/fki-hs/

担当教諭: 茶本 卓子、桝井 伸司、Rose Sabanal 担当教諭 E-mail: takako_chamoto_fukiai@yahoo.co.jp

> masui_2001@yahoo.co.jp rose_sabanal@hotmail.com



参加フォーラム:

- 1. What are natural disasters? 災害って何?
- 2. Why do they happen? 災害ってどうして起こるの?
- 3. What can I do? 災害が起こってどうなったの?
- 4. What shall we do for tomorrow? 災害から身を守るためにどうしたらいいの?
- 5. How can I help you? 災害から世界を助けるにはどうしたらいいの?

1. 活動経緯

この活動は国際科2年生の総合学習の時間(国際事情研究)の中で、「防災」に関心のある生徒23名を中心にグループ学習の形で取り組んだものである。授業での使用言語は英語である。

- 2004/9 国際科 2 年生 2 クラスに呼びかけ、「防災」に関心のある生徒 23 名で、プロジェクトチームを作る。1995 年 1 月の阪神淡路大震災について、インタビューをし、英語日本語の雑誌からの情報収集をし、NHKのドキュメンタリー番組を視聴して当時の状況を考察する。
- 2004/10-11 4つのグループに分かれ、地震、台風、洪水、火山爆発の自然災害を取り上げ、どうして起こるか、どんな被害が生じるか、災害に備えるにはどうしたらよいかを調べる。
- 2004/12 1月の淡路での中間発表にむけて、パワーポイントを使った発表の準備をする。
- 2005/1 クラス内で発表し、自分たちの調べたこと、考えたことを共有する。1月18日、淡路夢舞台で行われた防災世界子供会議に参加する。植樹祭やテレビ会議に参加した後、中間発表のプレゼンテーションを行う。葺合高校のホームページにまとめたものを掲載する。
- 2005/2 3月の淡路での発表に向けて、「防災学習、心のケアーの面で日本の高校生が国際社会に貢献できること」をテーマに、調査や議論をする。
- 2005/3 プレゼンテーション、ポスターセッションの準備をする。京都大学の防災意識調査のアンケートにクラス全員が回答する。

2. 活動内容

2-1. 阪神淡路大震災直後に発生した問題点を消防、医療、警察、自治体の4つの視点から考察し、 意見をまとめる。

- 2-2. 日本で多発する自然災害、地震・台風・洪水・火山爆発について 1) どんな災害? 2) どうして起こるの? 3) 災害が起こってどうなったの? 4) 災害に備えるにはどうしたらいいの?の4点を調べ、まとめる。
- 2-3. 国際協力の重要性に関して 1) 日本社会に住む日本人と外国人の地域社会における協力 2) 各自治体と住民の協力 3)各国間の協力を調べ、まとめる。
- 2-4. 国際協力の視点で日本の防災学習、心のケアーどう生かすかに関して調べ、グループで討議しまとめる。

3. これからの取り組み

- 3-1 3月に発表することを Web 上に公開する。
- 3-2 海外の姉妹校や短期海外研修や修学旅行での訪問校(オールトラリア、ニュージーランド、アメリカ、タイ、スウエーデン)へ防災通信のような形でまとめたものを送り、交流を深める。
- 3-3 防災意識を高め、環境についての学習を促進するプロジェクトを企画する。
- 3-4 今年度に調べたことを6月の文化祭で発表する。

4. 感想

- 4-1 阪神・淡路大震災10周年の区切りの年に再度震災を振り返ることができたのは有意義であった。生徒たちは当時小学校の低学年で「怖かった。大変だった。」というイメージだけが心に残っている者も多いが、家族や親戚の人にインタビューをしたり、雑誌を調べたり、当時のドキュメンタリー番組を見ることで客観的に震災がもたらした物的、心的被害の大きさについて改めて考えさせられた。自然災害を止めることはできないが、学習し、備えることで被害を最小に食い止めることはできるのである。防災先進国として、高校生は防災意識を高め、防災学習の内容や心のケアーについて、もっと世界に発信していく必要がある。
- 4-2 今までぼんやりと知っていた自然災害の知識を確かなものにし、現状を分析して、災害に強い 社会を作るためにはさらに今後何が必要かという点でより考察を深め、互いの意見を交換する ことができた。
- 4-3 1月の中間発表に参加し、小学生や中学生がよくがんばっているのを知り、大いに刺激を受けた。調べ学習にとどまらず、行動をどう起こしていくかが大切だと実感した。また、テレビ会議を通して国内の学校に限らず、海外の学校の様子や取り組みも知ることができた。普段は交流することができないアルメニアやイランの学校から直接、声が聞けて良かった。

Natural Disasters – Education, Preparedness and Mitigation, Cooperation (What Can High School Students Do?)

Country: Japan

Name of School: Kobe Municipal Fukiai Senior High School

International Course (11th grade) http://www.kobe-c.ed.jp/fki-hs/

Teachers in charge: Ms. Takako Chamoto,

Mr. Shinji Masui, Ms. Rose Sabanal,

E-mail: takako_chamoto_fukiai@yahoo.co.jp

masui_2001@yahoo.co.jp rose sabanal@hotmail.com

Participating in the Following Forums:

- 1. What are natural disasters?
- 2. Why do they happen?
- 3. What can I do?



- 4. What shall we do for tomorrow?
- 5. How can I help you?

1. Activities

The study group is composed of 23 students in the 11th grade of the International Course. The members voluntarily decided to join the group as one of their learning activities under the subject of Comprehensive Study / International Affairs. English is used as the medium of instruction..

September 2004 Organized study group, members wrote short essays about the 1995 Great Hanshin Awajj
Earthquake based on their own experiences and interviews with family members, read
related articles in magazines, watched an NHK documentary video

October/ Members divided into four groups and researched on: earthquakes, floods, typhoons,

November 2004 volcanic reactions

December 2004 Preparation for January presentation

January 2005 Representative students shared to their classmates what the study group had learned about natural disasters, participated in the January 18th tree-planting ceremony and made a presentation for the Natural Disaster Youth Summit intermediary session in Awajj Island

February 2005 Preparation for the March presentation (Natural Disasters Education, Mental Health)

March 2005 Preparing materials for the Natural Disasters Youth Summit Conference (stage presentation, poster session)

2. Content

2-1 The Great Hanshin Awajj Earthquake: Problems encountered by the: Fire Department, Hospitals, Police Department, Government; Students' Impressions

- 2-2 Natural Disasters that Occur Frequently in Japan: Earthquakes, Typhoons, Floods, Volcanic Eruptions: (1) What are they?, (2) Why do they happen?, (3) How can we prepare for them?
- 2-3 Importance of cooperation (1) between the Japanese people and Non-Japanese Community living in Japan, (2) between the government and the citizens, (3) among countries all over the world
- 2-4 Natural Disaster Education, Mental Health: How can countries work together?

3. Future Plans

- 3-1 Posting the content of the March presentation in the website
- 3-2 Organizing exchange programs related to natural disaster education with sister schools in other countries (New Zealand, Thailand, Sweden, USA)
- 3-3 Starting projects to promote natural disaster awareness
- 3-4 Exhibits and presentations during the annual cultural festival

4. Reflections

- The students were in their early childhood when the Great Hanshin Awaji Earthquake occurred ten years ago. For most of them, the experience left a memory of fear and hardships. However, by interviewing their family, and by reading articles in magazines and watching documentary videos, they were able to look at the situation in an objective way, got motivated to learn more about what cause natural disasters, how to prepare for them and how to be able to help oneself and other people when they happen. They also learned that the occurrence of natural disasters may not be controlled but loss of lives and properties can be reduced. Living in a country that has an advanced know-how about the subject, students felt the responsibility of sharing information with their peers in Japan and around the world.
- 4-2 Using the knowledge gained about natural disasters, students learned to analyze the present situation, thought more deeply about the important points to be considered, and exchanged ideas on how to make communities stronger and less vulnerable.
- In the January session, the students were very impressed to know what other groups have done. Although they acknowledge the importance of doing research, they also realized the need to act. Furthermore, they were very happy to have the opportunity to join other Japanese students and to participate in the video conference with students in other countries.





どんぐり募金

日本

公文式有野中町教室

http://ndys.jearn.jp/ja/school/donguri.htm

福井 良子

 $\hbox{$E$-mail: donguribokin@nifty.com.}\\$

fukuike@par.odn.ne.jp

トピック:「心のケア」「自分たちにできること」

1. 活動経緯

2004/11 どんぐり募金隊結成

2004/12 啓明学院、「小物つくりの会」参加

2005/01 有野中町教室「どんぐり母の会」結成

2005/02 イランと台湾から、親善大使訪問

2005/03 Ms.Prokhorenko Olga 先生たちの参加

2. 活動内容

どんぐり募金の目的

- 1) 生徒の目的
- A 木の恩恵を知り、活動すること有意義さを学ぶ
- B 災害のあった国や人々への理解を深める
- C人類への愛や他の参加者との有効関係を築く
- 2) 地域・父兄の目的

小物つくり活動に参加してもらうことで災害・活動への理解を深める



3. これからの取り組み

どんぐり募金は今始まったばかりです。今後もこの活動をつづけることで、生徒たちに災害に向かってゆく積極的な姿勢をもってもらいたいと思います









Donguri Fund Raising

Japan

Kumon Arinonakamachi School

http://ndys.jearn.jp/ja/school/donguri.htm

Yoshiko Fukui

E-mail: donguribokin@nifty.com.

fukuike@par.odn.ne.jp

Topic: What we can do?

1 · Process of the project

2004/11 Organize "Donguri Fund Raising Club"

2004/12 "Keimei Gakuin School" participated this movement

2005/01 Organize"Donguri Mother Club"

2005/02 Two ambassadors of stuffed dolls from Iran and Taiwan visited

2005/03 The school in Russia participated this movement

2. Contents of the project

The purpose of "Donguri Fund Rasing"

- 1) .Students:
- A Extended the knowledge about benefit from trees and noticed how precious the movement is.
- B Promoted better understanding about suffered countries and people from the natural disasters.
- C Cultivated a love of people and foster friendly relations between other participants.
- 2) Parents and the local community

Promoted better understanding about this movement. And natural disasters through making mascot pins which are symbols of their gratitude.



3. Future Activities and Remarks

"Donguri Fund Raising" has just been started. We will keep sending the message. I hope the students will keep their positive attitude against natural disasters.





あなたなら何を持ち出しますか?

日本 神戸市立樫野台小学校 6年生

http://www.kobe-c.ed.jp/ksd-ed/

原 優子

E-mail:mitsuhiko_yamamoto@sch.ed.city.kobe.jp

参加フォーラム: 非常持ち出し袋

1. 活動経緯

2005/01 学校の英語活動で「非常持ち出し袋を作る」をテーマに NDYS 学習を行う。

2005/02 国際理解クラブでイランおよび台湾の「NDYS 親善大使(ぬいぐるみ)を交換」

2. 活動内容

2-1. 英語活動

英語活動で、福井さんに講師をしていただき「災害が起きたとき、みんななら何を持ち出しますか?」というテーマで非常持ち出し袋の制作にかかった。そこで、「need」という言葉を覚え、自然災害「natural disaster」という単語を獲得した。

また、地震、水害、日照りなど様々な災害が世界各地で起きていることを知り、改めて自然の脅威について考えを巡らせることができた。神戸では、阪神淡路大震災から10年という節目を迎えた時期でもあり、身近な課題として子供たちに意識づけられた。

県北部の豊岡市を中心に起きた水害、中越地震、また、12月末に起きたスマトラ沖地震が映像で子供たちの家に伝えられたこともあり、共感を持つことになった。これらの災害に対し、本校では代表委員会を中



心に募金活動が始まり、励ましの便りを送る活動を行ったことも災害について考える大きなきっかけになった。

また、2時間目には日本に留学しているイラン、ルーマニア、フィリピンの方が英語活動に加わった。そこで、各国の非常持ち出し袋と子供たちが考えた袋とを突き合わせ、その違いを比べることで、子供の視野が広くなった。たとえば、「聖書」を持ち出す、ナイフが必要だ、など持ち出すものの違いが、人の暮らしと大きく関わっていることを知り、他国の宗教や風土のちがいにふれることができた。

2-2. NDYS 親善大使交換

16年度初めに「国際理解クラブ」がJEARN、JICAの要請によってタイ国の学生と親善大使交換(テディベアプロジェクト)に取り組んだ。さらに防災世界子ども会議に学校として参加する機会をいただき、再び国際理解クラブがイラン、台湾の親善大使を迎え入れた。わずか2週間の活動だったが、子供たちは他国の防災について興味を覚え、各家庭での防災に意識を向けながら、ホームステイに取り組んだ。

ある子供は、イランの子供に思いを馳せながら次のように書き記している。

「こんにちは。私たちは10年前の1月17日に阪神淡路大震災の被害を受けました。死者6500人を超えたといわれ、日本の歴史に残る災害になりました。私は当時大阪に住んでいたので、皿が少し割れたぐらいでした。

阪神淡路大震災は5時46分に起こりました。直接地震で亡くなった人もいますが、多かったのは、火事にまきこまれて亡くなる場合でした。ちょうど料理を作る時間帯だったからです。

水、電気、ガスもストップ。水は使用する回数が多いため、1日に何回も水をくみにいかなければなりませんでした。

しかも、家がこわれてしまった人は、学校などのひなん所にひなんしなければなりませんでした。

まさか、こんな所で地震なんて起こらないだろうと思っていた日本(特に神戸)は、それから防災意識を 高めていきました。

その結果、昨年の新潟中越地震の時も死者を40人ぐらいにくい止めることができました。しかも、ボランティアの人も自主的に集まってきました。私たち樫野台小学校からも、千羽づるを送りました。

私は、今回の事に通じて、いろいろ考えました。

今は「どこでいつ地震が起こる」なんて、はっきり わかりません。だから「震災が起きたらどうするか」 が一番大切だと思います。

今、日本では、「太平洋側に大きな地震がやってくる」 と言われています。私はその時ぜひボランティアした いと思います。

そちらでは、地震のときはどうですか? もし、みんなが助け合えるなら、すばらしいと思います。



「小さな親切が大きな助けになる」ことを、私はこれからも心の中にとめておきたいと思います。」

この感想をメッセージにして、会議で出会うイランの子供に手渡す予定である。子供の思いが素直に伝わり、心が繋がっていくことを期待している。

3. これからの取り組み

自分自身を災害から守るのはもちろん、お互いに支え合っていくことが大切であろう。世界を視野に入れ 取り組む姿勢を持ち続けたいと考えている。学校として、世界の人がお互いに尊重し合いながら、世界に生 きる子供の育成を支援していきたい。

4. 感想

本校では、英語活動を中心に海外の子供たちとの交流が進んできている。この取り組みを進めて、子供たちの国際交流が実現したという満足感だけでなく、ともに地球に生きる人として互いに支え合い、助け合っていくことの大切さを学ぶことができた。グローバル化が進む現代にあって、こうした経験は子供たちの将来に生き続け、国境を越えた活動を進める上での力となっていくであろう。

What are you going to take with you?

JAPAN Kashino-dai Elementary school, KOBE 6grade http://www.kobe-c.ed.jp/ksd-ed/

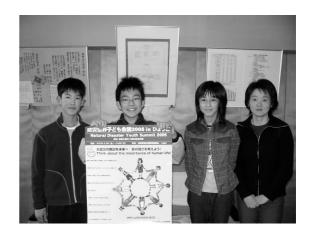
Yuko Hara

E-mail:mitsuhiko_yamamoto@sch.ed.city.kobe.jp

Forum: Emergency Bag

1. Process of activities

2005/01 In English activities we had a discussion on the subject of "making emergency bags" and learned about NDYS.



2005/02 The International Understanding Club exchanged NDYS goowill ambassadors (staffed animals) with students in Iran and Taiwan.

2. Contents of activities

2-1 English activities

We invited Ms. Fukui as a lecturer and had a disucussion on the subject "What are you going to take with you when disaster occurs?" and made emergency bags. Through this activity students learned the words, "need" and "natural disaster".

Also, knowing that various disasters, such as earthquake, flood, drought, and so on, have occurred all over the world, we thought over the threat of nature again. As it is 10 years since Hanshin Awaji earthquake hit Kobe, students took the topic as their own problem. Watching the scene of disaster-flood in Toyooka city, northern part of Hyogo prefecture, Niigata Chuetsu earthquake, and the big earthquake near Indonesia last December--on TV, students empathized victims. Under the leadership of students' committee



we started a campaign to raise funds for these calamities and sent them letters for encouragement. This activity was also a turning point to think about disaster.

Exchange students from Iran, Rumania, and Philippines took part in our second session. By comparing our emergency bags and theirs, children's point of view was broadened. For example, they realized that things in the bags, such as Bible, knives and so on were highly related to their life style. They also learned about foreign religions and cultural differences.

2-2 Exchange NDYS goodwill ambassadors

In the beginning of 2004 "the International Understanding Club" exchanged ambassadors with students in Thailand (Teddy Bear Project) at the request of JEARN and JICA. Our school also had an opportunity to take part in Natural Disaster Youth Summit 2005 and the International Understanding Club welcomed ambassadors from Iran and Taiwan. Though it was just a two-week project, students were interested in disaster prevention in other countries. Focusing on disaster prevention at home, they worked on home stay program.

Wondering about Iranian children, one student writes as follows:

"Hello. We were suffered great damage in Hanshin Awaji Earthquake on January 17, 1995. It is said that more than 6,500 people were killed. It became a historical disaster in Japan. At that time I lived in Osaka, so only a few dishes were broken at home.

The earthquake occurred 5:46 a.m. Some were directly killed by it, but many were killed by fire, because they were using fires for cooking breakfast. Water, electricity, and gas were stopped. We needed a lot water, so we had to go out to get it many times a day.

People whose houses were destroyed had to take refuge in a school used as a shelter.

We had never dreamed to have such a big earthquake in Japan (especially in Kobe). Since then an awareness of disaster prevention has been raising.

As a result, the number of victims counted only 40 in Niigata Chuetsu earthquake last year. Moreover, people voluntarily gather to give helping hands. Our school, Kashinokdai Elementary School, sent one thousand paper cranes there.

This experience made me think many things. At this moment it is impossible to tell 'when and where an earthquake happens'. The important thing is 'what we should do when it happens'.

It is said that a big earthquake will hit the coast of the Pacific Ocean in Japan in the future. If it should happen, I'd like to work as a volunteer.

What would you do if an earthquake happens? If we can help each other, that would be wonderful. I want to keep it in mind that 'small kindness will be a big help'."

I'm going to make this remarks into message and hand it to Iranian students. I hope what she thinks will move them and the bonding will be strengthend.



3. Future Activities

It must be important for us not only to protect ourselves from disaster but to support each other. We'd like to keep thinking from a global point of view. Respecting people all over the world, we, our school, would like to support nurturing children with a cosmopolitan outlook.

4. Remarks

In our school, cultural exchange with children in foreign countries has been promoted through the activities. We were satisfied with the fulfillment of cultural exchange. Moreover, we learned how important it was to support and help each other globally. The world is globalizing day by day. These experiences through the activities will be living in children's minds forever and be of great help for the project beyond border.

絵による「心のケア」*「アートでつなぐ心の輪」

日本 高槻市立第一中学校 1~3年生

担当 岡崎あかね E-mail; akane-okazaki@tcn.zaq.ne.jp

参加フォーラム: 絵による心のケア







1. 活動経緯

・2004年10月 中学3年 後期選択 美術授業 開始。心をつなぐ架け橋として、自分で伝えたいこと を切り絵で表現することに決定。

美術部も「アートでつなぐ心の輪」をテーマに、震災10周年にちなみ、ステンドグラスの原画作成。

・2004年11月 新潟上越地震により被害を受けた小千谷中学校へ励ましのメッセージを送る。(一中生 徒会と連携)

また、日本、イランおよびロシアと「NDYS 親善大使(テディベアや子ねこ)交換」で交流。

- ・調べ学習 (インターネットと新聞記事から)
- ・2004年12月 起震車による防災訓練と、震災体験の聞き取り。

調べ学習から、自分の伝えたいことを切り絵で表す、作品にとりかかる。

朝日学生新聞社・中学生ウィークリーより取材。

- ・2004年1月~2月 ステンドグラスと、切り絵の制作。(図1・2・3)
- 1月16日発行の朝日学生新聞社・朝日中学生ウィークリーに防災プロジェクトの取り組みが記載。(図4)
- ・2004年3月 日本、イランおよびロシアと「NDYS 親善大使(テディベアやこねこ)交換」で交流。
- ・ステンドグラスと切り絵 完成・展示。

2. 活動内容

中学3年後期選択授業・美術(男女20名)と美術部活動(男女20名)で取り組んでいます。

2004年10月より中学3年後期選択授業開始。美術部は私が顧問をしている放課後の課外クラブ。

Jean 防災プロジェクトの5つのトピックから関連して、取り組んでいるのは、1.3.5です。

- 1.過去に発生した災害について調べる学習
- 3.被災地の被害状況を調べる学習
- ・3年選択美術の授業時間では、おもに新聞や、兵庫県教育委員会発行の「明日に生きる」冊子を使って、 自分が強く関心を持った記事をまとめ、インターネットを使い、JEARN の防災プロジェクトの HP など から調べ学習をしました。(2時間)

美術部は、放課後の時間を生かして、コンピューター室から防災プロジェクトの Web をみて、メッセージを BBS に書き込みました。

(なお、1,2.3などの地震についての学習は、中学1年生の必修「理科」の授業で毎年、理科のカリキュラムに入っておりますが、ここでは割愛します。)

4.被害を少なくするための防災力について考える学習

現高槻一中勤務の国語科の先生が、神戸出身で阪神・淡路大震災時、中学三年で、震災にあわれた経験を全校生徒集会で話して下さいました。これは、毎年、起震車による防災訓練を学校が行っておりますので、その取り組みとの連携です。

5命の大切さ、人間としての在り方生き方を考え、私たちに出来ることを考える学習

絵による心のケアとして、自分たちができることはないかと考え、震災 10 周年を決起に、切り絵やステンドグラスで防災について語り継いでいこうというねらいで、制作しました。

この様子は、ブログで Web 日記に掲載しています。 http://blog.livedoor.jp/akane0117/



図4 掲載新聞

3、これからの取り組み。

この取り組みの中で、生徒たちは、震災についての報道に敏感になり、社会の動きや流れに以前より関心をよせ、制作しながら地震のことについて話合う場面がよく見られました。「少しでも覚えているのは、うちらが最後の世代、風化させないように、うちらが伝えていかなきゃ。」と、話していました。生徒たちに、一人一人は小さな存在でも、作品を通して国境を越えて人と人がつながり互いに元気を分かち合うことができるということを体験させたいと考え、このプロジェクトに参加しました。

今回は、自ら新聞記事を探し、心に残ったメッセージを切り絵にするのに時間をかけました。どう表したら効果的な表現ができるかを考えていく中で、じっくり対象に向かい合えたことがよかったと思います。これからも生徒の主体的な取り組みを促すようなカリキュラムを進めていきたいと思っています。

"Caring for mind" by picture "Circle of mind that ties by art"

JAPAN

Dai-ichi Junior-high school(Takatsuki-city) 1 ~ 3 grade

Akane Okazaki

E-mail; akane-okazaki@tcn.zaq.ne.jp

1.Activity details







Figure 1 Figure 2 Figure 3

- Selection art class beginning of latter term on October, 2004 the third grade of junior high-school. It decides it to the expression of wanting my to tell it as a link that ties the mind in the cutout. The art part is connected with "Circle of the mind that ties by the art" as the theme on the tenth earthquake anniversary, too and the original picture of the stained glass is made.
- The message of the encouragement is sent to the Ojiya junior high school where damage was received due to the Niigata Joetsu earthquake in November, 2004. (one inside student government and cooperation)Moreover, it exchanges it by Japan, Iran, Russia, and "NDYS goodwill ambassador (Teddy Bear and kitty) exchange".
- · Examination study(From the Internet and the newspaper article.)
- · Catching of disaster drill and earthquake experience by Ocofluclma in December, 2004. It begins the work that shows what I want to tell from the examination study in the cutout.
 - Coverage from morning sun student newspaper and junior high school student weekly.
- January, 2004? Production of stained glass and cutout in February. (Figure 1·2·3)

 The approach of the disaster prevention project describes to the morning sun student newspaper and the morning sun junior high school student weekly issued on January 16. (Figure 4)
- It exchanges it by Japan, Iran, Russia in March, 2004, and "NDYS goodwill ambassador (Teddy Bear and) exchange".
- · Stained glass and cutout completion and exhibition.

2. Content of activity

It works by the selection class of latter term the third grade of junior high-school, the art

(20 men and women), and the art part activities (20 men and women).

Selection class beginning of latter term the third grade of junior high-school in October, 2004. After school, the art part is an extracurriculum club that I am the adviser.

It is 1) 3) and 5) to work in relation from five topics of the Jean disaster prevention project.

- 1)Study that examines disaster that occurred in the past
- 3)Study that examines damage situation of stricken area
- It examined from HP etc. of the disaster prevention project of JEARN by putting the article in which I was strongly interested together by chiefly using "Would live tomorrow" booklet of the newspaper and the Hyogo Prefecture board of education issue, and using the Internet and it studied for three years at the class time of the selection art. (For two hours.) The art part made the best use of time after school, saw Web of the disaster prevention project from the computer room, and wrote the message in BBS.

(The study of earthquakes such as 1 and 2.3 enters the curriculum of the science by teaching requiring "Science" in the first grade of junior high-school every year, and omit it here.)

4) Study that thinks about disaster prevention power to reduce damage

The teacher of the national language department of present Takatsuki 1 inside work spoke the experience of encountering it in the third grade of junior high-school by the earthquake in the whole school student meeting from Kobe at Hanshin-Awaji (Kobe) Earthquake. Because the school goes in the disaster drill by Ocofluclma every year, this is cooperation with the approach.

5) Study that thinks it is possible to think about importance of lives and what should be way of life as man, and to do by us

In the aim said that thought whether we were able to do as caring for the mind by the picture, and the tenth earthquake anniversary of disaster prevention was handed down to rousing to action in the cutout and the stained glass, it produced.

This appearance is published in the Web diary with Brog.

Http://blog.livedoor.jp/akane0117/

Figure 4 publishing newspaper



3. Future activities

Students saw in the report of the earthquake in this approach, and it drew, and it was interested in movement and the flow of the society well becoming sensitive than before. It spoke with "Did not tell it in the last generation and us that it remembered even a little so as not to allow it to weather in us". It participated in students, and it wanted one by one to experience transcending national borders through the work, the connection of the person to the person, and being able the division of vigour even by small existence each other, and it participated in this project.

This time, to look for the newspaper article voluntarily, and to make the message that remained in the mind a cutout, time was spent. I think that being able opposite to symmetry when thinking whether an effective expression can be done if it shows very deliberately was good. I would like to advance the curriculum which will urge students' autonomy from now on.

鐘中少年少女火消隊

日本 東京都墨田区立鐘淵中学校 http://www6.ocn.ne.jp/~kanechu/ 渡部 昭 watabe@mvf.biglobe.ne.jp

地域の防災訓練に参加しています

「鐘中少年少女火消隊」は、鐘淵中学校が墨田区の防災拠点地区にあるということで、平成 13 年に学校運営協議会の提案を受け発足しました。向島消防署からポンプ等の機材を借り受け、消防署員の指導の下、訓練を行い地域の防災訓練に参加しています。隊員は、他の部活動とも兼ねている生徒が多く、今年度は隊員 13 名で活動しています。学校に「火消し隊」があるということで、全校生徒の防災意識も高まっています。

平成 14 年度には東京都教育委員会から児童・生徒表彰を、平成 16 年度には墨田区から区長表彰を受けました。







The Fire Fighting Team of Kanegafuchi Junior High School

JAPAN

Kanegafuchi Municipal Junior High School in Sumida ward in Tokyo http://www6.ocn.ne.jp/~kanechu/ Akira Watabe watabe@mvf.biglobe.ne.jp

We participate in a local disaster prevention drill

"The Fire Fighting Team of Kanegafuchi Junior High School" was set up in 2001 under the proposal of community school council, as our school was located in a stronghold of disaster prevention in Sumida ward. We borrow equipment for extinguishing, such as pumps and hoses from Mukojima Fire Station, test ourselves under the guidance of firefighters, and participate in a local disaster prevention drill. Most of the members join other club activities, too. There are 13 members in the team this year. Awareness about disaster prevention in our school has been improved due to the existence of the team. Our school was awarded a prize for its activities by Tokyo Metropolitan Government Board of Education in 2002 and by the head of Sumida ward in 2004.







選択英語での取組

日本 明石市立衣川中学校 3年生

松本 尚之

E-mail: kinu-jhs@edi.akashi.hyogo.jp

参加フォーラム: すべてのフォーラムに参加(3学年選択英語・総合的な学習の時間で参加)



1. 活動経緯

2004/09

↓ 交流フォーラムを使って学習

2005/02

2005/02 避難訓練、ハザードマップの作成

2. 活動内容

2-1. 選択英語での取組

衣川中学校では、金曜日の6校時の選択英語の授業の時間で防災プロジェクトに参加した。本校区は、10年前の阪神淡路大震災では、大きな被害を受け、多くの家屋が倒壊し、避難所や仮設住宅の生活を余儀なくされた。本校も、3ヶ月間もの間、武道館が避難所になった。

9月より毎週金曜日の英語の時間に、フ ォーラムを活用しながら、防災について 学習した。本校に震災当時から勤務して いる先生に、震災当時の学校の様子を話 していただいた。震災当時4歳の生徒も 当時の記憶が残っており、マンションの 水運びに苦労したこと、ガスが1ヶ月使 えなかったことなど、などを思い出しな がら、学習を進めていった。しかしなが ら、それを英語で表現することはなかな かできず、ただ、他の学校の生徒の書き 込みを見るだけで、英語の自信が無いの か、なかなか書き込みが進まなかった。 衣川中学校の先輩方が作成したWEBペ ージを参考にしながら、自分達でも、英 作文をしようという気持ちになってきた。 しばらくすると、何人かが、自己紹介な

If-Introduction NAME:Daiki Itoi Schookkinugawa JHS :2004/12/02(Thu) 15:11 No.100 RES

Hello My name is Daiki Itoi Iam 14 years oid Iam from Tarumi I live in Akashi now. Iam student. I like English but I don't like math and Japanese. Istudy English and math every day, I like tennis very much. I will take part in this project. I want many people to teach me many things.

Re: Self-Introduction Shun School:Keimei Gakuin - 2004/12/04(Sat) 11:24 No.102

hello.My name is Shun Hasegawa.Im 14 years old.I live in Kobe.I like soccer very much. Earthquage is very terrible.You take caer too.

Re: Self-Introduction Yusaku Matsuo School:Kinugawa JHS - 2005/01/21(Fri) 14:48 No.129 Nice to meet to.

no title Kei Naito School:Kinugawa JHS - 2005/01/21(Fri) 14:57 No.131

Nice to meet you too.

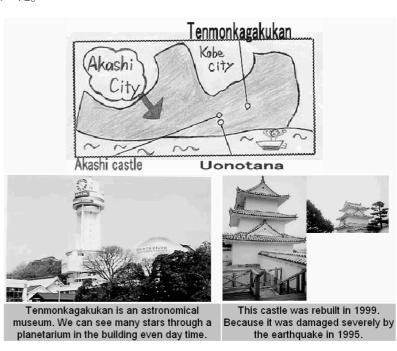
Re: Self-Introduction Yuusuke Kanda School:Kinugawa JHS - 2005/01/21(Fri) 15:04 No.134

Nice meet you to too

Re: Self-Introduction Daiki Ito i Schoolkinugawa JHS - 2005/01/21(Fri) 15:06 No.135

Thank you. I scare the earthquake. What do you think of the Sumatra coast earthquake though it is a question?

(図1) 生徒の書き込み



(図2) 地域を調べたWEBページ

どを書き込みだし、返事がもらえるととても感動していた。

2-2. 避難訓練ハザードマップの取組

震災10年目の1月17日に校内で避難 訓練を行った。自分の教室から外へ出る ための避難経路を再認識すると共に、当 時の様子を映像で見ることによって、自 然の恐ろしさを改めて感じた。

またクラスにおいて、自分の身の回りの 危険箇所を話し合い、ハザードマップの 作製を行った。普段見慣れた場所だが、 よく見るとたくさん危険な場所があるこ とを知り、改めて防災学習の大切さを知 ることができた。



(図3) ハザードマップの作製の様子

3. これからの取り組み

阪神淡路大震災を機に、校区の町並みが大きく変ってきた。昔ながらの住居が、マンションになり、どんどんと他の地域から転居してきた。この変りつつある地域の中で、防災の大切さを再認識し、助け合いの心を忘れない地域を守っていかなければいけないと思う。その意味で、今年度は地域のハザードマップを作成した。災害に備えて、災害に強いまちづくりを生徒と地域がともに考えるようになって欲しい。

3年の生徒が被災時4歳ということで、直接震災を体験した生徒がどんどん減ってくる。地域の被災の状況を、きちんと残しておくことが、これからの防災学習の一つの手段として大事である。地域にある、貴重な資料や話をきちんとデジタル化できたらいいと思う。

4. 感想

今までは、インターネットといえは、検索を中心に使用してきた。インターネットといえば、「暗」の部分が大きく取り上げられることが多かったが、この取り組みを通して、インターネットの可能性を、生徒も教師も実感した。しかしながら、コンピュータ操作に不慣れなため、また、英語に自信が無いため、リアルタイムにコミュニケーションをとることができなかった。また、コンピュータだけでは、内容を深めていくことは困難で、聞き取りや、新聞記事や、書籍も学習の参考になった。

Disaster Mitigation Study in Elective English Course: Learning from the past and turning it to advantage in the future

JAPAN: Kinugawa Junior High School, Akashi

Masayuki Matsumoto

E-mail: kinu-jhs@edu.akashi.hyogo.jp

Participating Forum: All

(3rd-graders participated during Elective English course and Period for Integrated Study)

1. Study Process

2004/09

↓ Discussion Forum

2005/02

2005/02 Fire drill, create a hazard map

Helio My name is Daki Rio I Jam 14 years old I am from Tarumi I live in Akashi now. Jam student. I like English but I don't like math and Japanese. I study English and math every day. I like tennis very much. I will take part in this project. I want many people to teach me many thinks. Re: Self-Introduction Shun School Keimei Gakuin - 2004/12/04 Sat) 11.24 No.102 helio. My name is Shun Hasegawa Im 14 years old I live in Kobel I like soccer very much. Earthquage is very terribe. For take care foo. Re: Self-Introduction Yusaku Matsuo School Kinugawa JHS - 2005/01/21 (Fr) 14.48 No.129 Nice to meet to. no title Kei Naito School Kinugawa JHS - 2005/01/21 (Fr) 14.57 No.131 Nice to meet you too. Re: Self-Introduction Yusaku Kanda School Kinugawa JHS - 2005/01/21 (Fr) 15.04 No.134 Nice meet you to too Re: Self-Introduction Daki Itoi School Kinugawa JHS - 2005/01/21 (Fr) 15.06 No.135 Thank you. I scare the earthquake. What do you think of the Sumatra coast earthquake though it is a question?

(Figure 1) Student 's Notes

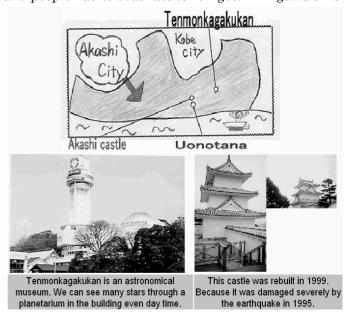
2. Activities

2-1. Elective English course

The students participated in the NDYS project during Elective English course that is offered once a week, 6th period of Fridays. The Hanshin-Awaji earthquake, which occured ten years ago, caused extensive damage to our school destrict. A lot of houses collapsed and people had to evacuate to refuges. Kinugawa JHS

also served as a refuge for the residents for three months.

Having started from September, the students learned about natural disaster prevention through the discussion forum. In addition that, they received a lecture from a teacher who had been working at the school back since the earthquake in 1995. The lecture was about what happend to the school and how the school functioned at the time of the disaster. Since the students, four years old back in 1995, have some memories, they promoted their study by looking back their experiences. For instance, they carried a heavy bucket with full of water, because the water supply dameged. The gus supply also stopped for a month. Unfortunately, due to the



(Figure 2) The examination of Akashi Web site

language barrier, even though the students were eager to read the messages on the discussion forum written by peers, they hesitated to share their own study and experiences. It took some time before they actually began to write a message. They got motivated toward writing by looking at the WEB that senir students created. Even with a simple text, it was impressive for them to get response from real audience.

2-2. Fire drill & Hazard map

On the day of January 17th, 10th memorial day from the earthquake, we had a fire drill in the school. We checked the evacuation route and watched the video which describes the situations back in 1995. What we learned the most was how powerful nature is and how menacing nature could be.

In each class, the students discussed about possible dangerous factors surrounding them and developed a hazard map. Although it looked safe in our daily life, we found a lot of hidden dangers when we paid a special attention. It was a good start for the disaster mitigation education.

3. Further Study

Since the earthquake occured, the town where our school locates has dramatically changed. Modern apartments have taken the place of wooden houses, and the town have had a large number of newcomers. Reflecting all the changes, it seems essential to



(Figure 3) Draw the hazard map

re-consider the importance of disaster mitigation and to develop a community where people support each other. We are hoping that the students and the community members come to think about how to develop a strong town against any kind of disasters.

There would be less students from now on who acutually experienced the earthquake. Therefore, it seems important to keep accurate records of the disaster in order to provide meaningful disaster mitigation education. It would be a good idea to digitalize useful resources in the school destrict.

4. Reflection

Although the dark side of the Internet has been spotted, we have found further possibilities of the Internet through this project. There are some issues that need to be concerned, such as technical support for computer use, language barrier, and lack of real-time communication. Moreover, it seemed meaningful to use not only the Internet but also printed materials or stories in order to make the study deepen.